

第191回葉隠フォーラムのご案内

I 日時 平成28年6月28日(火)午後4時30分

(会費 1,000 円)

II 場所 (第189回から場所が変更になりましたので、お間違いのないようお願いいたします。)

サロン・ド・ジュリエ

〒104-0061 東京都中央区銀座5-13-16 東銀座三井ビル1階

(地下鉄銀座線・東銀座駅徒歩1分、銀座駅から徒歩5分。歌舞伎座の向いの辺りで、ただし昭和通り沿いに2、3軒目のお店です)

III 今回のテーマ「朱舜水と日本の武士道」

IV 前回のご報告と今回への取り組み

前回は、「北部九州の仁和寺領・・・と(?)」として、北部九州における仁和寺の領地と、そのことの色々な広がりについて取り上げました。

まず最初に取り上げたのは、申年の今年、神埼市の仁比山神社で行われた御田舞の話です。

仁比山神社は、地元では「山王さん」と呼ばれていて、12年に一度(以前は13年に一度と称しました)の申年に御田舞というものを奉納します。これは田植えから稲を育てる過程の所作を舞うもので、民俗文化財とされています。本殿の前に舞台が設えられ、地元の申年の人たちが舞を舞う口伝のパフォーマンスです。

この仁比山神社ですが、このようなことが行われるに至ったそもそもの由来としては、承和3年(836年)、当時の仁明天皇により、690町歩の勅旨田が神埼荘に置かれたことが大きいのではないかと(勝手に)思っています。この仁明天皇の仁と比叡山の「比」つまり申とで「仁比山」。神埼荘は、後の鎌倉時代には3300町歩と言われますが、その嚆矢をなしたのがこの行政処分であって、その当時この勅使田は、日本で3番目の大きなものだったということです。つまりは、神埼荘は、こうして天皇の領地となりました。

それで、かくして勅旨田が置かれた佐賀県東部ですが、この話しをもう少し広く見られないかなあとと思っているわけです。

それというのも、現在の佐賀市にある、徳善院(葉隠に出てくる有名なお寺)のご住職様から、その昔、この北部九州には相当な仁和寺の領地があったと伺った(現に福岡などにもいろいろ)、そのこととの関係からです。

上記仁明天皇の子供である光孝天皇は大宰帥を務めて、北部九州と大変関係が深かった、また、この前後の皇太子なども多くが大宰帥を務めています。その光孝天皇によって特に藤津庄(現在の藤津郡)は、仁和4年(888年)に成立した仁和寺の領地になりました。竹崎観世音寺も仁和寺末。また、その北にある杵島郡も同じく仁和寺の領地だったようで、仁和寺にはその文書もあります。徳善院があるところはそのやや東で、このあたりも仁和寺領。上記のとおり仁和寺末寺の真言宗御室派。その東が神埼荘であり、こうして有明海の沿岸は、オール天皇の領地。

そして、この仁明天皇、淳和天皇、文徳天皇、光孝天皇、これらの天皇は極めて近い親戚である一方、日本史で習った「承和の変」(842年)などは、仁明天皇の後継者の選出に絡んで、藤原良房との軋轢の下に生じた他氏排斥事件、更にその後、応天門の変(866年)、関白基経の「関白」という称号に関して、天皇権力と藤原氏権力とのぶつかり合いがあり、最終的には関白というものが強固なものになった阿衡事件(887年)。つまり、この時代は天皇の権力と藤原氏の権力が藤原氏の権力拡張策との間でぶつかっていた時代で、それだけに色々と事件が起きてきました。

そうした中で、宇多天皇は藤原氏の勢力を削ぐために菅原道真を登用し、道真は894年に遣唐使廃止を献言しますが、結局大宰権帥に左遷されてしまいました。それを悲しむ宇多法皇は間もなく仁和寺に入り、仁和寺は御所の形をなすので「おむろ(御室)」と呼ばれます。益々天皇の本拠で(あるいは一種の院政ともいわれるようです)、その仁和寺の領地が佐賀県。

というようなわけで、特に肥前は皇室との関わりが深く、一貫して荘園ではない勅旨田として、実質的には機能してきたようです。

その一部・鹿島から、平安末期に出てきたのが、新義真言宗の祖である覚鑿上人であり、彼は最初仁和寺で修業して高野山に行き、更にそこを出て根来寺を作りました。その仁和寺の東京におけるランチが、先日お散歩をした文京区の護国寺であり、仁和寺も護国寺を称し、更に仁比山神社も仁比山護国寺というのが本来であって、現在は仁比山神社と護国寺の流れである地蔵院とが別々に存在しますが、仁比山神社の入り口には仁和寺と同様、大きな仁王様のある門があり(ただし、この仁王様は江戸時代の作品との説あり)、仁和寺との極めて近いスタイルを残しています。

などなど考えていくと、こうして藤津郡、杵島郡、佐賀郡(佐嘉郡)、神埼郡がつながり、その先には坂本峠あるいは有明海、筑後川、宝満川経由の太宰府があり、その太宰府を通じての特に遣唐使、更にその他の貿易が行われていたと思われます。貿易ということになれば、事は佐賀県の米だけでなく東北地方の鉱物などを巻き込む話になります(後の平家物語)。特に仁明天皇は病弱であったため、薬にやたら詳しく、『肥前旧事』によると、しきりにこの頃、医者のお話が出てくるわけです。つまり、中国(その当時の唐)からの薬の調達にも大きな関係があったのかもしれない。藤原良房との軋轢についても、むしろ彼らとの貿易上の利権争いが指摘されているところです。

こうして、今では何の変哲もない農村地帯も、実は様々な国際関係を有しており、それがまた日本の政治にも反映されていたということが言えるのかなあというのが私の勝手な推測ですが、嵐先生のコメントにもありましたように、このようなことをより深く追究し研究ができればもっと素晴らしいことではないかと思います。また、先日、嬉野会でこの話しをしたら、吉田会の富永英二会長様から、例の和泉式部も(?)というお話しがありました。時代は100年以上下ってしまうのですが、佐賀県西部が、中央、特に皇室との強いつながりを持っていたということが、杵島郡の和泉式部伝説を生んでいたのかもしれないかもしれません。中央だけでなく、地元の文献、あるいは外国の文献も当たるとよりはっきりすることなのかもしれませんね。

以上、誠に無責任なお話し、よく言えば「ロマン」でした。

今回は、久し振りに正統的(?)な武士道の話として、朱舜水を取り上げてみたいと思います。参加の方は嘉村までご連絡ください。 嘉 村 孝 平成28年6月6日 (TEL 03-3261-5860 FAX03-3264-8456 kamura@eurus.dti.ne.jp) ■ 武士道バーチャル博物館 <http://hagakurebushido.jp/> ■ 東方からの見聞録 <http://kamura-lu.jp/>

.....

【東京佐賀県人会 講演会①】のお知らせ(講師は嵐義人先生です)

日時 平成28年6月20日(月) 午後2時～
場所 銀座サロンドジュリエ
講師 嵐義人氏 (元文科省主任教科書調査官・前國學院大學教授)
演題 「九州・日本の玄関口」(仮題)
会費 3000円(予定)

.....

【春風亭正朝独演会のお誘い】

春風亭正朝師匠が今年も独演会を開きます。今年は、昨年と同じく、江戸情緒豊かな、深川江戸資料館で行います。概略は以下のとおりです。

演題については次回お知らせします。

前売りは2,500円ですので、参加の方はEメール(kamura@eurus.dti.ne.jp)か、お電話(03-3261-5860)か、FAX(03-3264-8456)にて嘉村までお申込み下さい。

記

日時 平成28年7月16日(土)
＜開演＞午後6時30分 (開場 午後6時)
場所 「深川江戸資料館」住所：江東区白河1-3-28 電話：03-3630-8625

.....

【東京佐賀県人会 講演会②】のお知らせ

日時 平成28年8月26日(金) 午後2時
場所 銀座サロンドジュリエ
講師 米国の投資家で、経産省にも関係深く、慶應義塾大学の講師などを務める
ロイ・アショク氏(著書「インドと組めば日本は再建できる」(幻冬舎))
演題 「イノベーションとアジア投資」(仮題)
会費 3000円(予定)